

研究課題 注腸造影所見と胎便関連性腸閉塞の外科的介入予測因子の検討

1. 研究の目的

胎便関連性腸閉塞は主に極低出生体重児に認める胎便排泄遅延を伴う機能的腸閉塞です。治療の第一選択はガストログラフィン注腸による胎便排泄促進ですが、治療抵抗性あるいは穿孔を伴い外科的介入を要する症例も存在します。極低出生体重児は耐術能に乏しく、腸管拡張増強により敗血症や消化管穿孔に至ってからの外科的介入では全身状態増悪に伴い救命が困難になります。したがって、注腸による保存的加療が可能なのか、外科的介入が必要なのかどうかを速やかにかつ適切に判断することが重要です。

本研究の目的は初回ガストログラフィン注腸造影所見から外科的介入の必要性を予測可能な因子を同定することです。

2. 研究の方法

2013年1月から2024年12月までに胎便関連性腸閉塞と診断された患者さんが対象となります。

診療録から、患者背景・術後経過などの情報を調べまとめます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

術中所見、周術期経過など、カルテの記載から、検査に関する事柄（画像、検査所見、治療方法）を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者さんの名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：外科 科長 川嶋 寛

研究分担者：外科 医員 津坂翔一

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2026年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）